

〔鹿藩名勝考〕大隅同郡○大櫻島○本朝文粹等亦云向島武備志同是鹿島に對備するの名なり櫻島といふはむかし櫻花一葉海上に浮てよりなる島ゆえ名づけしと云舊説あり蓋木花開耶姫の名によりしなるべし方角集に薩摩の内に收めしは誤なり

府東海上一里周廻七里

山上八分より上は三條の外路なし、渉るを一里といひ、降るを十八丁と云、皆九折の峻岨也、嶺に湖あり、嶺に神祠あり、彥火々出見尊を祀る、又月夜見尊、火闌降命をも配祀すと云、故に兔を愛して、島民其名を諱て敬謹するものは、月夜見尊を奉祀するが故といふ、

〔地理纂考〕大隅郡 櫻島

鹿兒島ヲ距ル事東方一里、四方海岸、周廻九里三十一町餘、村落十九武村、古里村、湯ノ村、西道村、高免村、瀬戸村、黒神村、有村、野尻村、赤水村、横山村、小池村、赤生原村、藤野村、沖之島村、高二千七百七十七石五斗三升八勺一撮○中人員總計一万千四百二十九人、戸數二千二百二十五軒、

島形大抵圓シ、中央ニ櫻島岳秀出ス、人家皆海岸ニアリ、南ニ沖子島アリ、西南ニ鳥島アリ、北ニ新島アリ、皆當島ニ屬ス、サテ此島俗ニ靈龜四年、或ハ養老二年、或ハ和銅元年ニ湧出ストイヘルハ、無稽ノ妄説ニシテ、兎角論ズルニ足ラズ、按ズルニ、續日本紀□□天皇天平寶字八年十二月、西方有聲似雷、非雷、時當大隅薩摩兩國界、煙雲晦冥、奔雷去來、七日後、乃天晴、於鹿兒島信爾村之海、砂石自聚、化成三島、炎氣露見、有如治鑄之爲形勢、相連望似四阿屋、爲島被埋者、民家六十二區、口八十餘人、云々トアルヲ訛レル事論ナシ、是ハ同紀ニ神造島トアリテ、今ノ國分郷小島ナリ、サルヲ近世騷人文士等、妄リニ櫻島ヲ天平島、或ハ寶字峯ナド、イヘルハ、笑フニ堪ヘリ、神島ノ事ハ、同國國分郷ノ卷、小村ノ條ニ詳ナリ、白尾國柱曰、皇帝紀云、靈龜四年、向島湧出ス、或説養老二年、向島湧出ス、按ズルニ、二説思ラクハ、非ナリ、靈龜養老ノ間、天長時、政錄誌曲盡シテ遺サズ、櫻島トキ、一島生出セムニ、國史ニ是ヲ登載セザラムヤト云々、

〔西遊雜記〕櫻島は、大隅薩摩の中央にありて、小ならざる島にて、山をえま、ヶ嶽といふ、麓はくる